



休刊大祭日第一第二日曜

(明治二八)△インケルマ

拈華微笑

緑に翠翠し曉靄

△彼方晚秋の水

この四千票の力

ませぬか、然らばきたと

平町田町本通り

△鐵骨鳴に及び

平隣を見る快感

全部を明るく使

ころを御窓に入れよう

六

△御騎兵は軍將リユーリカ

持つて、イナ菅野氏役

△の命に從ひ森馬を飛

々に對し遠慮はいらぬ、坐

行くのですか

△貴方に眞直ぐに真闇へ

女は船底からさし込む朝

日には眩ふしうな目つきを

したが彼に問ふのであつた

彼は前日に自分は眞尚玄

度告料、逕行六十銭指定半錢者

登記、誌、報

△新開社

道路問題がもつれて

及ぶ

議事未了を見越した町當局
適法に續行再開決定

（三）

日六月一十年五月五日

河口川便

第三回

河口川便